

ようこそ校長室へ！

No. 6

令和5年5月11日

発行：貝塚 敦

に にこにこ笑顔で

い いつもみんなで

っ 紡ぎ繋げる心で

に 日本一をめざすのだ

「ALL FOR ONE」の ONE の正体 ＜PTA総会に向けて＞

私が住む地域の小学校の運動会では、自治会ごとに観覧・応援席が割り当てられ、各自治会が各自治会所有のテントを、主にお父さん方が中心となって、早朝の6時前頃から総出で運搬し組み立てていました。

その準備活動に、多くのお父さん方が参加していましたし、もちろん15年くらい前に保護者であった自分も、毎年参加していました。

運動会には必要不可欠な活動として誰からも認知され、参加することに誰も疑問も抱かず、それが「当たり前」の活動として定着していたわけです。

準備が終われば缶ジュースを飲みながら、わずかな時間よもやま話に花を咲かせ、互いの交流を深める貴重な場であり、さながらミニ親父の会でした。

しかし、その「当たり前」はいとも簡単にあっけなく打ち砕かれました。言わずもがな、「コロナ禍」の影響です。保護者や地域の運動会の参観は制限され、ソーシャルディスタンスをとることが余儀なくされ、自治会テントが不要となったばかりか、おじいちゃんやおばあちゃんも含めて家族が楽しみにしていた子どもたちの運動会の姿や、あのお祭りのような雰囲気を近所の人々と共有する機会は、失われました。

世の中では、そして当校の各種教育活動においても、その当時は有意義な活動として「当たり前」と受け止められていた様々なことが、コロナ禍を契機に、途切れたり無くなったり見直されたり改善されたりするケースが、多々見受けられるようになったのです。

今、コロナが落ち着いた状況下、アフターコロナ・ウィズコロナとしての新たな教育活動を模索する時代が訪れました。それは、すべてをコロナ前に戻すことではなく、今回のコロナ禍を契機に、各種教育活動や学校行事を、精選・重点・集中・見直し・改善、つまりスクラップ&ビルドの契機にするということです。

もちろん、その中にはPTA活動も含まれます。コロナ禍だったからではなく、コロナ前から、PTA活動にはいろいろな意見がありました。PTA不要論はもちろんのこと、「仕事が忙しくて時間に余裕がない」「役につくのが重荷だ」「不公平を感じる」「小学校とは違うのだから学校に任せていればいい」「やれる人がやればいい」「時代は変わった」「今までやっていた活動がなくても学校は動く」などなど、そういう声があるのは、またそう言った意見そのものを、ごくごく当然のものだと受け止めています。

時代とともにPTA活動も変化すべきだと思いますし、旧態依然、前例踏襲は、現状維持ではなく後退を意味するものです。

当校でも、PTA活動のあり方や運営のシステムは、これからみんなで合意形成を図りながら、大胆かつ慎重に改善・見直していく必要性を強く感じています。

一方で、生徒という「ヒト」も、校地・校舎・校具などの「モノ」も、教育活動が生み出す目で見えない雰囲気や活動の充実を担保する「ソフト」面も、教師の所有物ではありません。保護者や地域との共有財産です。したがって、学校運営は、そして子どもたちの成長は、これまでも今後も、保護者や地域の理解と協力なしには成り立たないのです。いや表面上成り立ったとしても、実のあるものにはなりません。

昨年度から、学校と地域が「子どもを育てる」パートナーとしてさらなる連携と協力を図る「地域とともにある学校づくり」の核となる「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」がスタートしました。同様に、学校は常に「保護者とともにある学校づくり」を目指すべきだと考えます。

このような社会や学校の情勢が変化する中でも、不易なものがあります。それは、お父さんやお母さんや家族が自分のために汗をかいてくれているという姿を、子ども自身が見たり接したりすることの意義です。

それは、生業としている日々の仕事であれ、PTA活動であれ、地域と学校パートナーシップの応援活動であれ、その他多くの学校や地域のボランティア活動や自治会の活動であれ、自分の生活のために家族が働く姿を見ることも、自分たちの学校や地域のために汗をかいている家族の姿に子どもたちが接することも、子どもにとって最高の教育であるということは、いつの時代にもどんな世の中でも、不変のかけがえのない真理です。

「ONE FOR ALL , ALL FOR ONE」という言葉があります。もともとラグビーで使用されていたチーム論ですが、今ではあらゆる組織論として当たり前の言葉となっています。この言葉を、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」と受け止めている人が少なくないですが、実はこれは誤りです。後半の「ALL FOR ONE」の「ONE」は、「一人」ではなく「目的」とか「ゴール」のことだと言われています。つまり本来の意味は、「一人はみんなのために、みんなで一つの目的(ゴール)に向かって」なのです。では、学校の教育活動の目的、ゴールとは一体何なのか。それは、すべての生徒を幸せにすること、すべての生徒を笑顔にすることだと考えています。

そのために、保護者の皆様には、ぜひ次のようなスタンスで学校への理解と協力をお願いするものです。

- ◇新津二中の全校生徒、地域に住む子供たちは、すべて我が子であると思ってください。
- ◇自分の子が幸せになるためには、周りの自分の子以外の子も幸せになることが必要なのです。
- ◇自身のお子様に関わる内容でなくても、学校や地域への協力・支援は、必ず自分の子どもにプラスになって戻ってきます。

お仕事やご家庭の都合は、ひとそれぞれの事情を抱えている中、保護者の皆様には、毎々多大なご苦勞をおかけしている学校教育の現状は、重々承知しております。

重々承知はしておりますが、PTA活動を含む学校の教育活動へご理解と、できる範囲内での最大限のご協力を、これからも引き続き重ねてお願いします。

すべての子どもたちの笑顔、ひいては自分の子の幸せ、それが我々の目指すゴールであり、我々にとっての大いなる「ONE」だからです。